

平成30年度事業計画

ボーイスカウト福島連盟

昨年は高萩スカウトフィールド（大和の森）で、日本初のジャンボレットが開催され、本連盟からも参加、見学の派遣をしました。今年は6月に東北大地震と津波の被害にあった南相馬市を中心に第69回全国植樹祭が開催される予定で、当連盟にも奉仕の依頼が来ております。また8月には第17回日本スカウトジャンボリーが石川県珠洲市で開催されます。

2020年に開催される東京オリンピックの年、パラリンピック直前に福島県の国立磐梯青少年交流の家を会場に第13回日本アグーナリーが開催されます。既に準備委員会が日本連盟と共催で2回開催され、テーマも「We Can! ふかめよう友情、広げよう絆」と決定されました。この大会は障がいを持つ青少年との共生を図るためのもので海外からも参加があり、福島の災害からの復興を世界にアピールするチャンスでもあります。そのために福島連盟の総力を挙げて成功させなければなりません。

私たちのスカウト活動とは、福島の子どもたちが元気に野外で活動することができ、活動の良さを多くの青少年が体感し、その結果社会に貢献できる人材となれるよう育ててゆく教育活動としての使命を果たすことが目標です。

そのためには、より良いプログラムの確立と指導者のスキルアップが不可欠です。指導者が各人の任務と責務を自覚しながらスカウトと向き合う姿勢が大切です。そのために福島連盟は総力を挙げて支援していく取り組みをいたします。

<基本方針> 「活動的で自立したスカウトを育てよう」

平成34年（2022年）に日本連盟創立100周年を迎えるにあたり、運動の根幹である青少年の育成について、改めて本連盟は、冒険的で楽しい野外活動を行いながら、奉仕活動に励む「活動的で自立したスカウトを育てる」ことを目指します。

<重点目標>

加盟員拡大・組織拡充に向けた取り組みを最重要課題と位置づける。
団、地区並びに指導者への支援、人材の養成と活用に努め、組織の強化を図る。
第17回日本スカウトジャンボリーへの参加に向けた取り組みと、2020年の第13回日本アグーナリーの成功に向けた準備を進める。

<責務>

理事長が掲げる重点目標を実現するため、重点施策基本路線として、適正かつ活発的な運営に努め、組織の構築と団支援、指導者支援にあたることを役員員の責務とする。

<重点施策>

- 地区、団、隊への支援体制と組織強化月間を活用したスカウト増員への協働体制確立
- 指導者のスキルアップ体制構築（トレーナーとの協働）
- 財政管理組織の確立と効率的な活動
- 財政確保の推進と予算の有効活用

- 理事・委員会役員の役務理解と実践活動
- コミッショナーグループとトレーニングチームの組織充実と運営スタッフ養成
- 各委員会事業の点検、事業運営見直し。
- 全国植樹祭、17NSJへの取り組み強化
- 13NA開催に伴う日本連盟・ブロック間の協力体制の確立